

「安心・安全な産科医療充実に向けた市民アンケート」調査の概要

1. 調査目的：ささやま医療センターが分娩休止を検討している現状をふまえ、市内で安心して子どもを産み育てる環境を守っていくために子育て世代の妊娠・出産にかかる現状や要望等市民ニーズを把握し、今後の方向性を検討するための参考にする。
2. 調査期間：令和元年6月11日～6月28日
3. 調査対象：子育て世代の市民等（主に妊婦、就学前の保護者）
4. 調査場所：
 - ①乳幼児健診（4か月児・1.7歳・3歳）
 - ②母子健康手帳配布（随時）
 - ③母子保健事業（パパママ教室・子育て相談・赤ちゃん訪問等）
 - ④おとわの森子育てママフィールドプティプリ
 - ⑤子育てふれあいセンター
5. 調査方法：

調査場所	調査、配布、回収方法	配付数	回答数
乳幼児健診	健診時にアンケート調査・回収	67	65
母子手帳配布	窓口でアンケート調査・回収	13	13
母子保健事業	事業実施時にアンケート調査・回収	31	31
おとわの森子育て ママフィールド プティプリ	事業実施時にアンケート調査・回収	17	17
子育てふれあい センター	センター利用の来所者に調査・回収	125	120
総計		253	246

(回収率 97.2%)

6. アンケート集計内容 (概要) :

【回答者の属性】

- ・ 回答者は97%が「母」で、20～30代が85%、40代以上が15%であった。
- ・ 地区別では、篠山地区29.7%・篠山東地区4.5%・西紀地区6.9%・丹南地区50.8%今田地区4.5%・その他地区(里帰りの方等)1.6%が回答され、全体の8割が篠山・丹南地区の方であった。
- ・ 家族構成は、「夫婦と子供のみ」の核家族が76.8%で、祖父母等との同居は19.9%であった。
- ・ 子供の人数は、「1人」が44%、「2人」が34%と約8割を占めた。
- ・ 居住年数は、「1～5年未満」が44%と多く、次いで「10年以上」が28%、「5～10年未満」が19%となっている。
- ・ 現在妊娠している方は12%あり、今後予定している方も19%ある。

【現在妊娠中の方への質問】

- ・ 妊娠中の方で、出産を予定している医療機関は、「ささやま医療センター」31%、「タマル産婦人科」35%と、約7割の方が市内での出産を予定している。
- ・ 出産予定の医療機関を選んだ理由は、「以前そこで出産してよかったから」26.4%と最も高く、次いで「住んでいるところに近いから」22.6%、「医療設備・体制が整っているから」18.9%であった。
- ・ 選んだ理由の「その他」記載では、ハイリスクであったり、妊娠前より継続受診中の医療機関であったことなどが挙げられている。

【すでにお子さんのある方への質問：第1子】

- ・ 第1子を出産した医療機関は、里帰り出産をされた方もあり、市外の医療機関が52%で市内は38%（ささやま医療センター16%、タマル産婦人科22%）であった。
- ・ 出産した医療機関を選んだ理由は、「住んでいるところに近い」「実家に近く里帰り出産できる」で40.6%、「医療設備・体制が整っているから」が19.7%、「友人・知人からの評判が良い」12.3%であった。
- ・ 選んだ理由の「その他」記載でも、「自宅や実家、職場に近いから」の回答が最も多く、24.7%あった。次いで、「食事や個室対応などのサービスの良さ」が19.5%、「自分が生まれたところや家族が出産したところ」が13.0%、「ハイリスクであったため」11.7%、「土日診療がある」10.4%、「以前に通院していた(検診や診療)」9.1%であった。
- ・ 出産医療機関別に選んだ理由の割合をみると、ささやま医療センター・タマル産婦人科は半数以上が「近いから」であり、ささやま医療センターについては「医療設備・体制が整っている」も28%と高くなっている。

【すでにお子さんのある方への質問：第2子以降】

- ・ 第2子以降を出産した医療機関では、57.5%が市内医療機関（ささやま医療センター27.5%、タマル産婦人科29.9%）であった。
- ・ 選んだ理由は、「以前そこで出産してよかった」からが25%、「住んでいるところから近い」が24.6%であった。

【全員への質問：産科分娩休止報道について】

- ・ この度の「ささやま医療センター産科分娩休止」の報道をどのように感じたかの質問に対し、36%の方が「突然でびっくりしている」「報道を知らなかった」と感じ、23%が「今後どうなっていくか不安」と捉え、「分娩休止はしないしてほしい」と22.8%が訴えている。「仕方ない」と感じる方も3%あった。
- ・ 「その他」の記載では、市やささやま医療センターへの「分娩存続」に対しての要望もあり、産科以外(小児科など)の休止の不安も挙げられていた。
- ・ 出産医療機関別に見ると、ささやま医療センターで出産されている方は、「報道を知らなかった」方は4%と少なく、それ以外の方は17.6%が「知らなかった」と答えており、「現状や理由が知りたい」と答える方の割合も、ささやま医療センターの方は3.4%であるのに対し、11.9%と高い割合であった。

【全員への質問：ささやま医療センターの産科分娩継続の希望について】

- ・ 産科分娩継続の質問に対して、70%の方が「継続を希望する」と答え、「希望しない」は4%であった。
- ・ 出産医療機関別に見ると、市内で出産している方では77.7%が継続を希望しており、希望しない方は1%であった。
- ・ 市外で出産された方でも、65.1%は継続を希望しており、5.9%が希望しないの回答であった。
- ・ 希望しない方の問11への記載では、市内の産科が1つなくなることに対する不安や、より総合的な産科施設を望む声が挙げられていた。また、これからの子育てや定住に対しても不安を訴えていた。

【全員への質問：出産場所確保や安心・安全な産科医療体制等についての意見・要望】

- ・ 246名中128名が回答 *52名のみ*
- ・ 意見を、①安心・安全な産科医療体制の充実について ②子育て支援・定住移住促進等について ③ささやま医療センター(兵庫医科大学)への意見・要望について ④その他と、4つのカテゴリーに分けて集計を行った。
- ・ ①安心・安全な産科医療体制の充実 42.2%、②子育て支援・定住移住促進等 25% ③ささやま医療センター(大学)への意見・要望 21.1% ④その他 11.7%であった。
- ・ 意見では、分娩・出産への今後の不安だけでなく、小児科の充実など、出産後の子育てへの不安も多く、市内での産科・小児科の医療体制整備を強く望む声がほとんどであった。
- ・ また、それらの不安を踏まえ、市が推進している「帰ろう・住もう」の定住・移住促進に対しても、マイナスの影響が出ると意見される方もあった。
- ・ ささやま医療センター(兵庫医科大学)については、今の現状(医師・助産師不足)に理解を示され、その方たちの職場環境改善を求める意見もあったが、今回の対応について強く抗議を訴える意見もあった。

【アンケートまとめ】

- ・ 今回のアンケートを通して、市内に住む、妊娠・出産をひかえた方を含む子育て世代の、生の声を聞くことができた。
- ・ 当事者であるこの世代の方では、市内の産科医療機関の1つが分娩できなくなるということは、大変な驚きと不安であり、安心・安全な出産に対しての選択の幅狭めることになるため、分娩の継続を強く願っているということを知ることができた。
- ・ また、それらの不安要素は、今後の子育てへの不安も引き起こし、定住・移住促進に対してマイナスの要素となる事も住民の意見として指摘している。
- ・ 出産場所として医療機関を選択する最大の要因は「住んでいるところに近いこと」であった。特に第2子以降になると、子育てをしながらの受診・出産・健診は、上の兄弟を連れて、また預けての受診となるため、より近いところを希望されるようだ。
- ・ 市内の産科医療をしっかりと確保していくことは、分娩だけでなく、子育て支援としても重要な要素である。また、産科と小児科は連動しており、産科の縮小が小児科の縮小につながる恐れもある。
- ・ 「安心・安全な産科医療体制の確保」という、目前の課題はもちろんのこと、「子育て一番」「帰ろう住もう」を今後も進めていくためには、これらの課題にしっかりと取り組んでいかななくてはならない事を、子育て世代は、市だけでなく、ささやま医療センター(兵庫医科大学)へも強く要望していることがわかった。